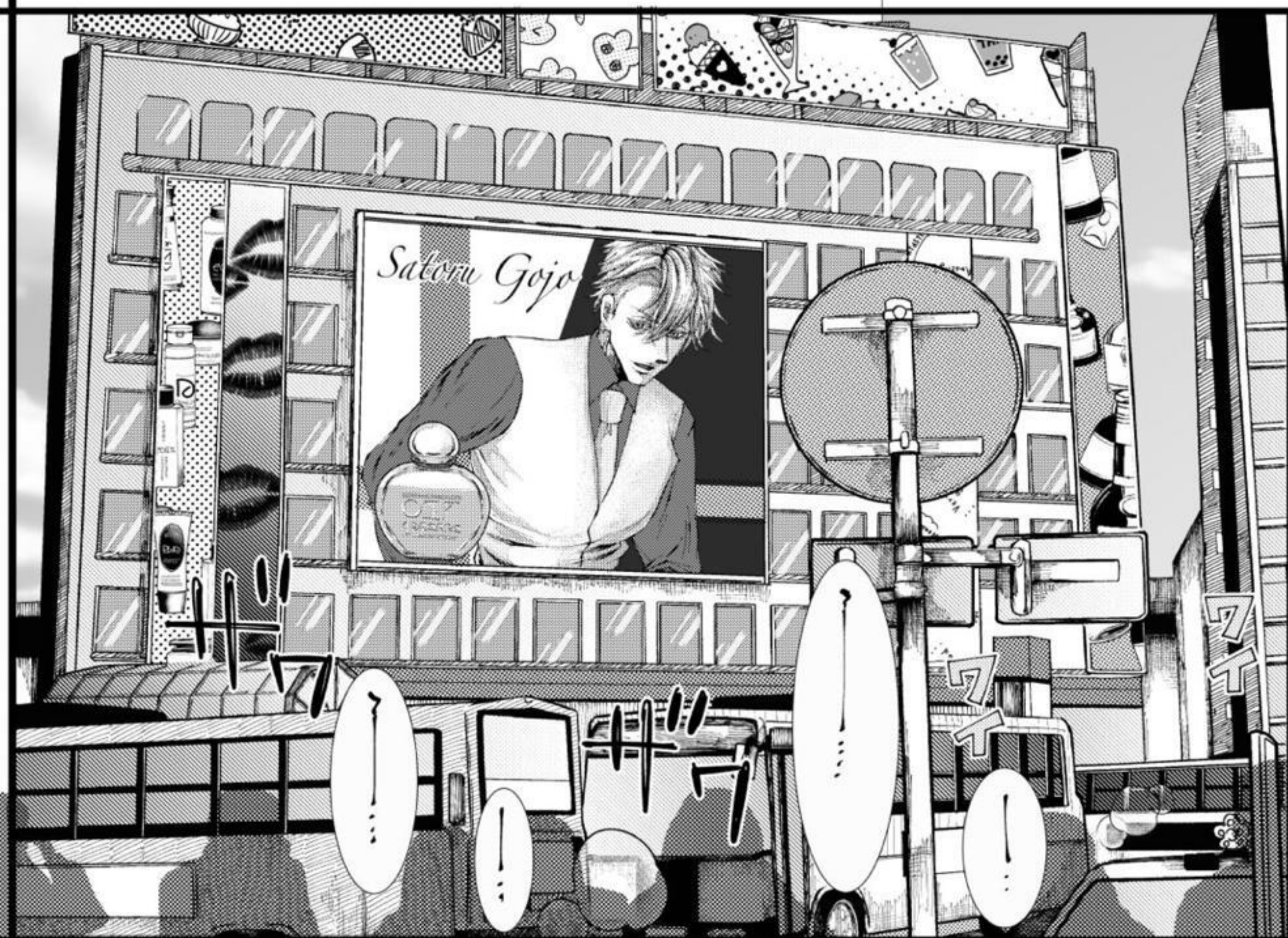




五条悟：呪術師最強の男だった

だがしかし今は呪霊も呪術師も存在しない
世界に所謂一般人として私も生活している

相変わらずあの人は…



勿論、自分の最期の瞬間も
昨日の事かの様に思い出す

自分は前世では呪術師という
特異な仕事をしていたらしく

恋人である五条悟の封印を
解くべく戦っている中で

結局は辿り着く事が出来ずに

一人の少年に託し、呪いを課してしまったのだ

『後は頼みます』

そして数年前に私は彼と
再会を果たしたのだが...

ナナ、ミン...

ナナミンはさ

五条先生に会わないの

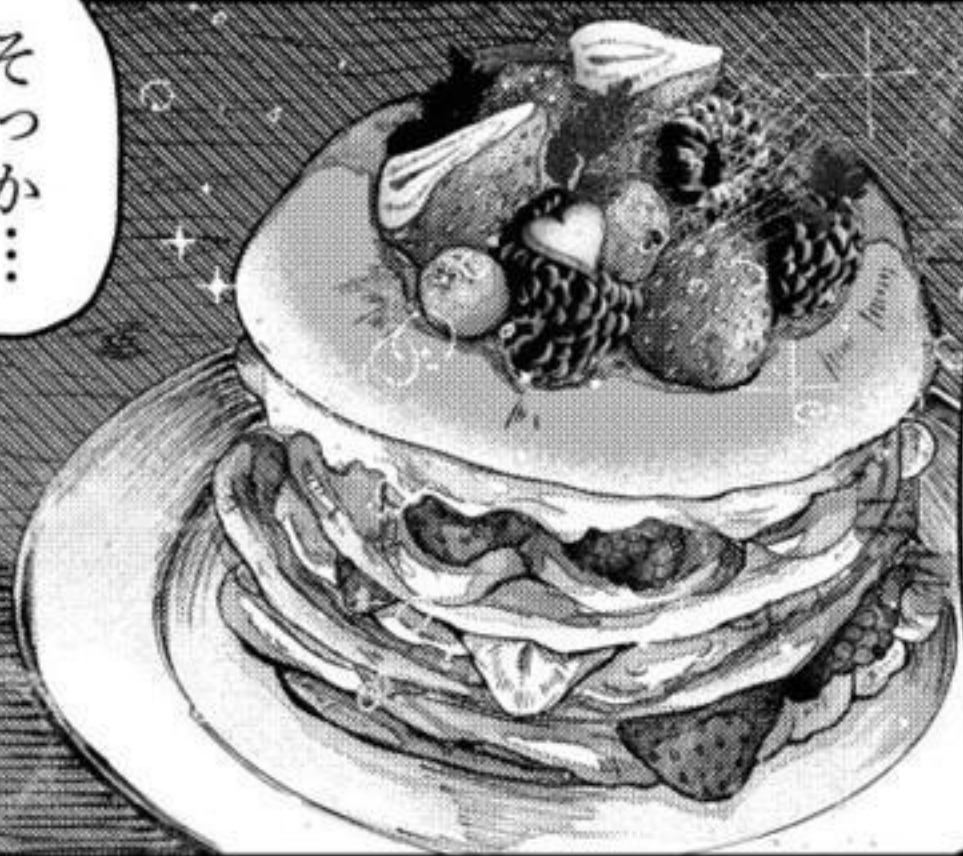
わあお

※虎杖悠仁大号泣により
不審者扱いされた七海建人

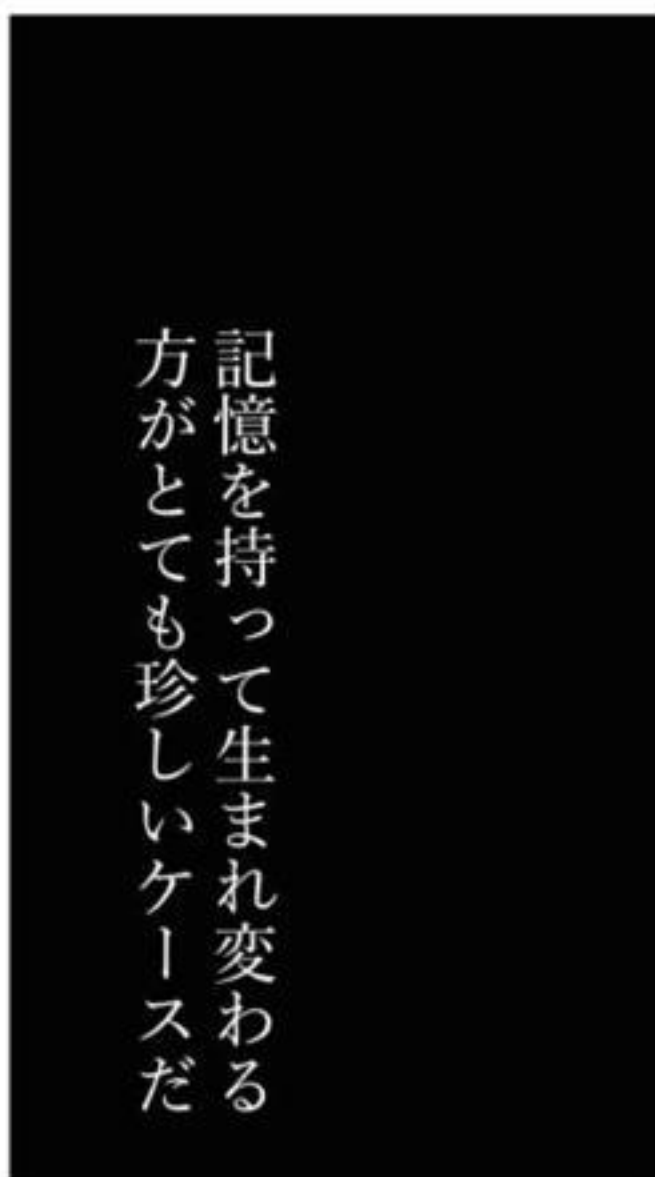


記憶を持って生まれる
方が珍しいもんな普通

そっか…



今のところ会う気は
ありませんし…
第一、記憶があるから
さえわかりませんから



記憶を持って生まれ変わる
方がとても珍しいケースだ



だが、虎杖くんの言う通り…

釘崎さんと伏黒くんも
再会を果たし相変わらず
仲良く…今世は一般的な
楽しい学生生活を送れて
いるのは喜ばしいことだ



今はもう違う

呪霊も呪術師も存在しない

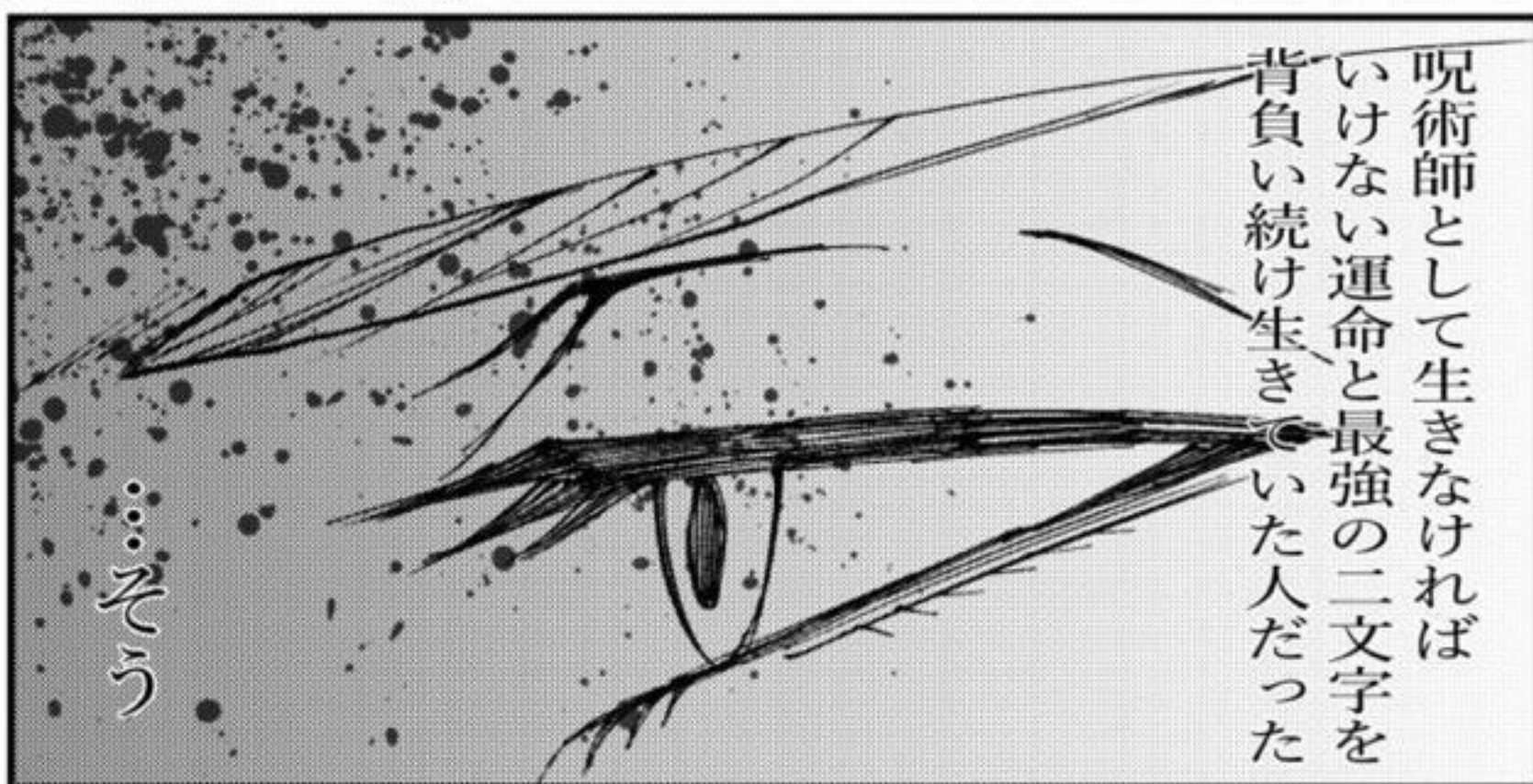
そんな世界に生を受ける事が出来た

今世こそは五条さんにはちゃんと
幸せな道を歩んで欲しいと願う故に



だがその方がいっそ…

自分の気持ちに諦めがつく



呪術師として生きなければ
いけない運命と最強の二文字を
背負い続け生きていた人だった

…そう

私と出会ってはいけない
五条さんはその方が…

絶対に幸せになれる

彼の人生の足枷になって
しまうくらいならば…
遠くから眺めている方が
ずっといいと思う

確かに僕はお前がいなくても
生きていけるかもしれない

でもそれはきつと色がなくて
息が詰まりそうな世界だよ

それが…僕の答えだよ

轟

愛してる

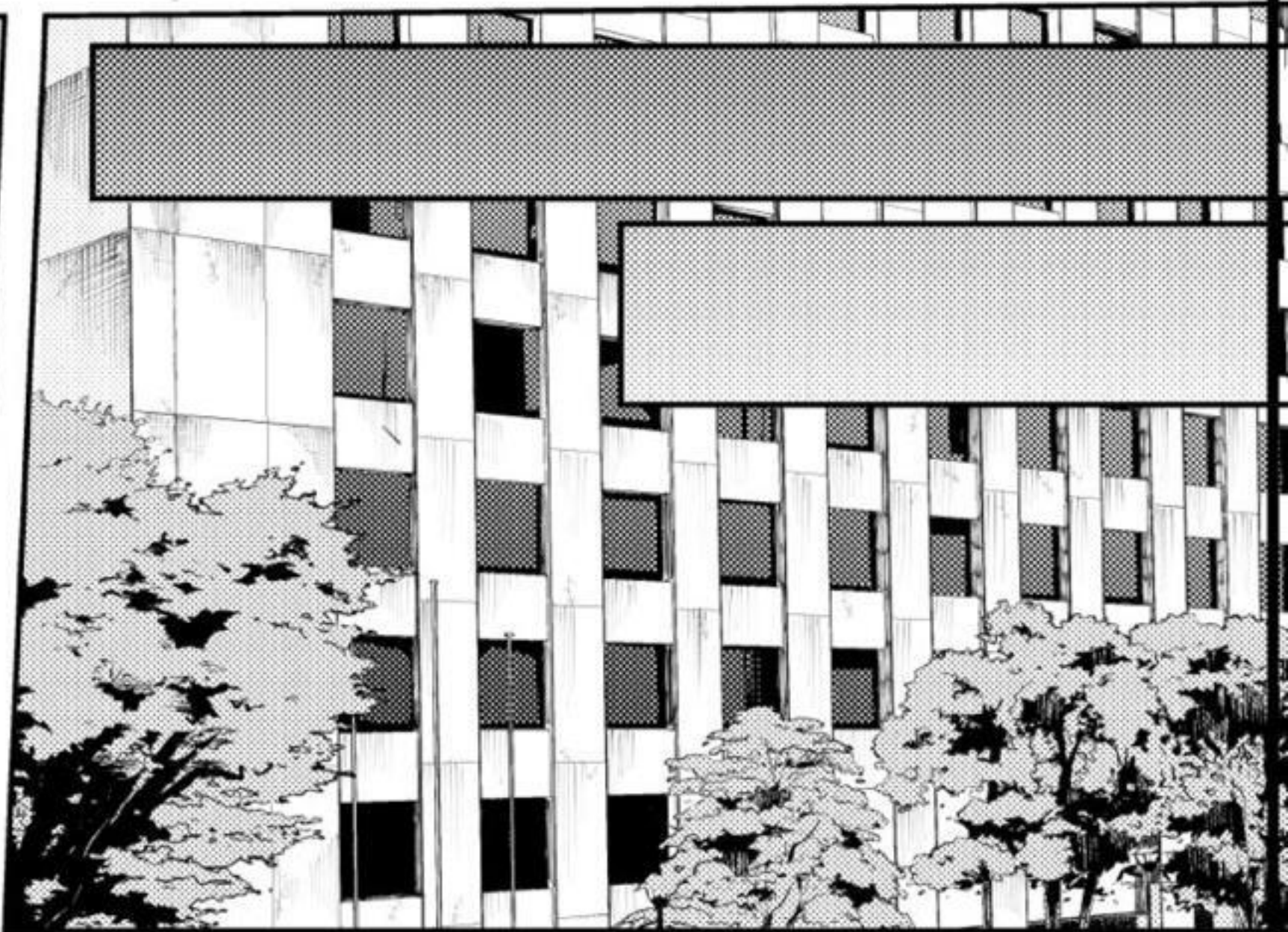
…ああ

また同じ夢を見た

毎回、同じシーンを繰り返す

それがやけにリアルで...

あーもう、なんだよくそ



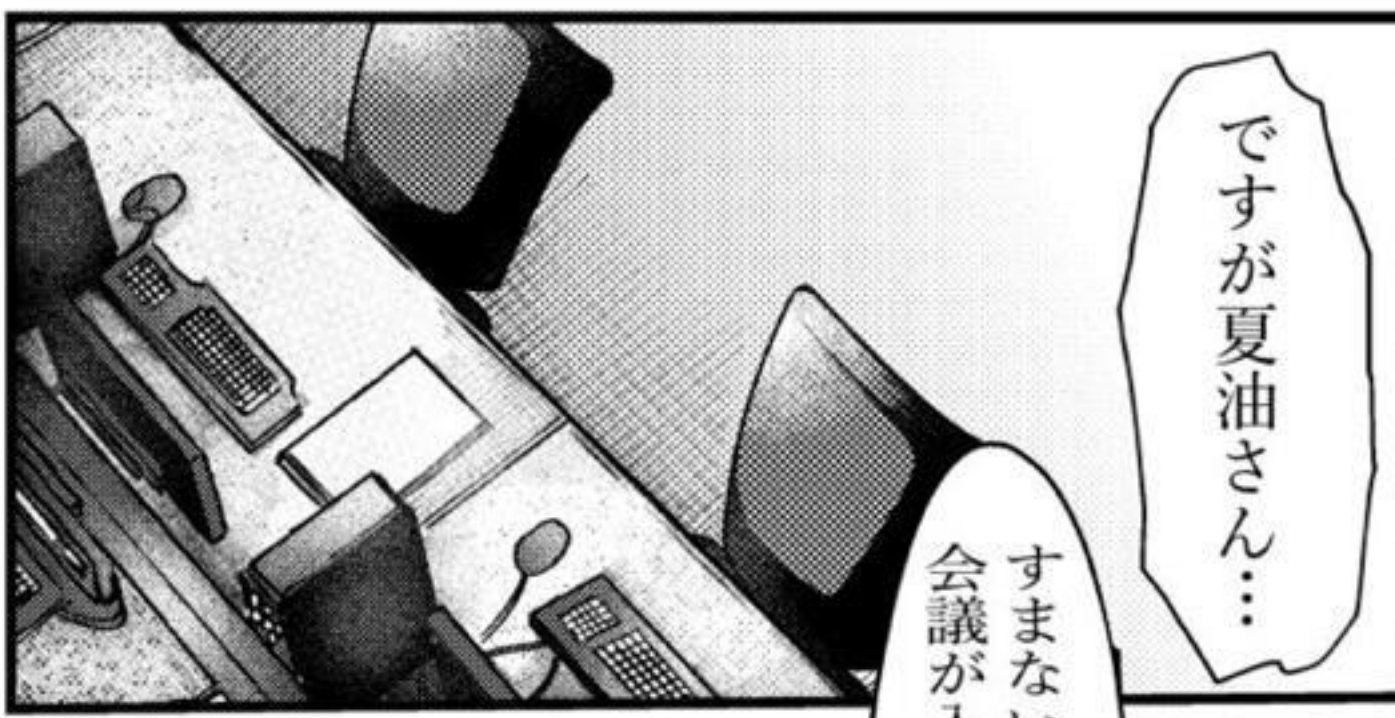
五条さん入ります

お願いします

今日はよろしくお願いします

よろしくお願いします





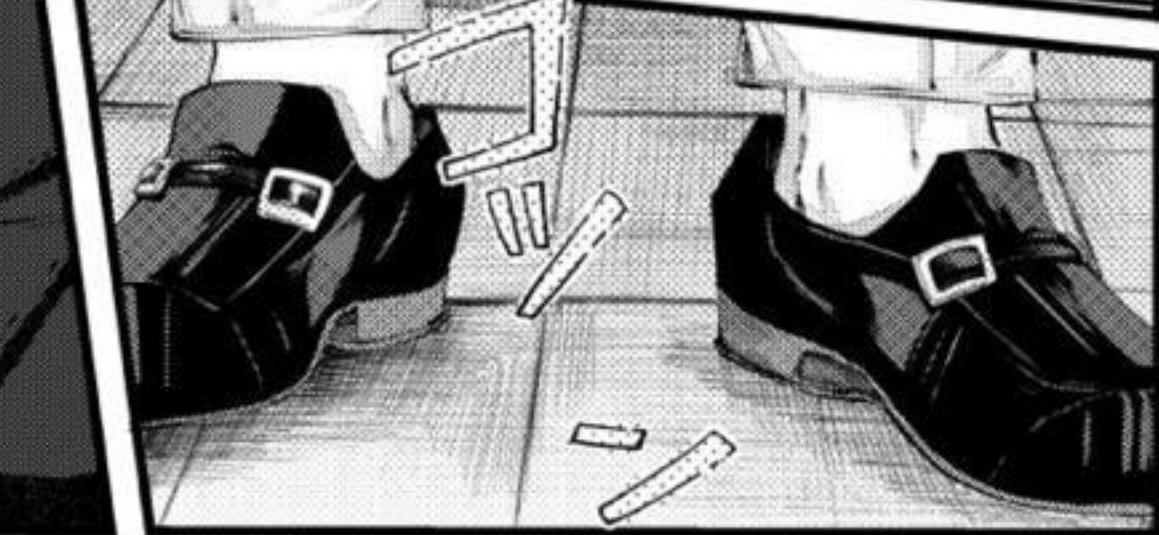




こいつでいいじゃん



ああ！
夏油さんの所の！



じゃあ名前教えてよ

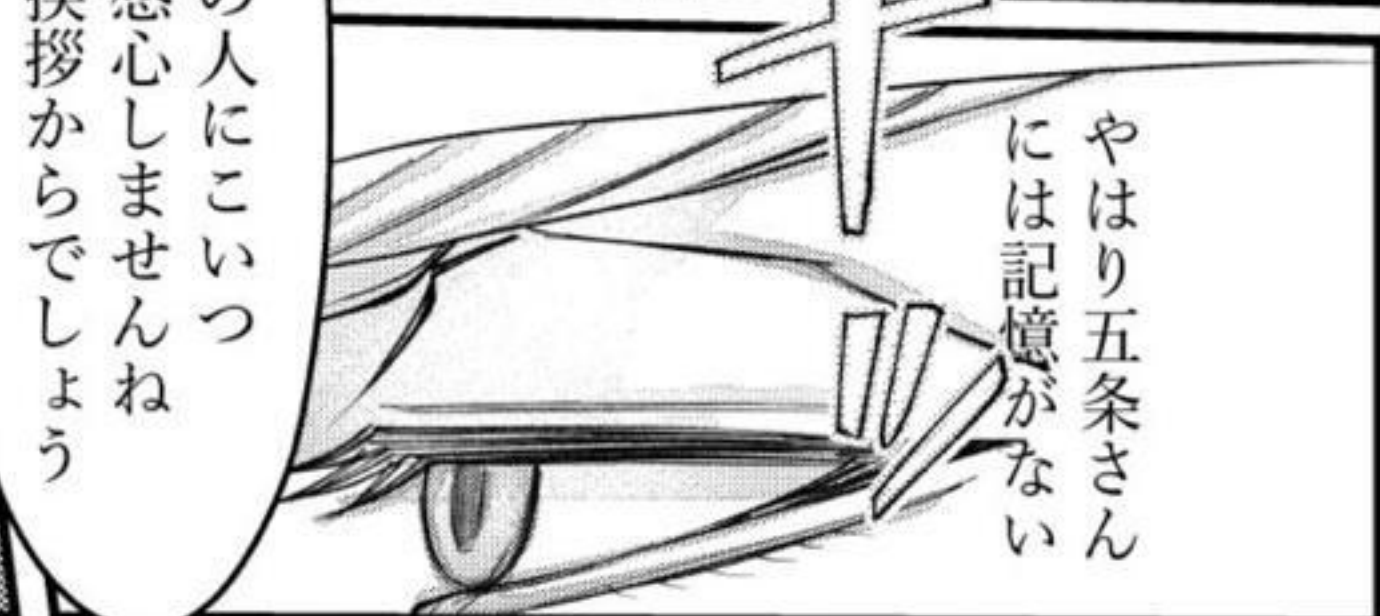
どーも

安心してゐる自分と寂しい自分がいる



初対面でこいつ呼ばわり…か

は
初対面の人にこいつ
呼びは感心しませんね
まずは挨拶からでしょう



やはり五条さん
には記憶がない



あの五条悟とマトモに
会話が来ているぞ…！

さっき言いました
七海建人です

えー見た目外国人
みたいな顔して
名前ガチ日本人

クォーターなので
そもそも日本人離れ
している人に言われ
たくないのですか

俺のは生まれ
つきなのぉ

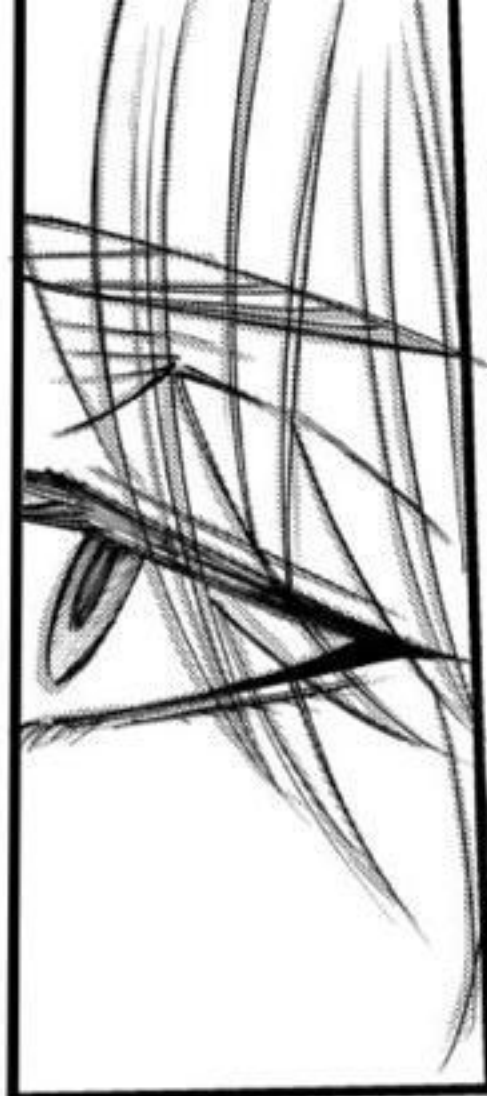


夏油さんの顔もあるから
断りきれなかった…クソ

まあそう言うなよ
良かったな顔良くて

本当に貴方は非常識ですね
スーパーモデルの五条悟さん





スーパーモデルなのは
認めるけど俺の一体
どこが非常識だった？

そう言うところが既に…
さっきも言いましたが
初対面の人に挨拶が
出来てない時点で…



…すみません

飲み物でも
買ってきます



七海



触れた時の温もり



何度も消えようとしても思い出してしまう

刷り込まれたように忘れられ無い言葉



最悪だ



次の撮影まで時間があるようなので

ー……ああ



え



どうぞ



だって俺の好きな飲み物ドンピシャで驚いたんだけどあんた、ブラックコーヒーだし好みも全然違うのによくこれ選んだなって思っ

俺、甘党だって話したっけ？



これ、俺がよく飲むやつだ……

ーなあ

あんた俺のファン？



………は



やはり近づいてはいけなかった
触れてはいけなかった



嘘ではない……だが

ー……癖ですよ、一緒によく飲み物を買っていた人がそればかり飲んでいたので買ってしまいましたがお口に合って良かったです

いつそ、千切れてしまえばいいのに

ガッ

解けずに固く結ばれ……

段々と脆くなっていく

遠くから眺めているだけなら
こんな感情抱きやしなかった

まるで紐のように

絡んだらなかなか
解けず絡まっている



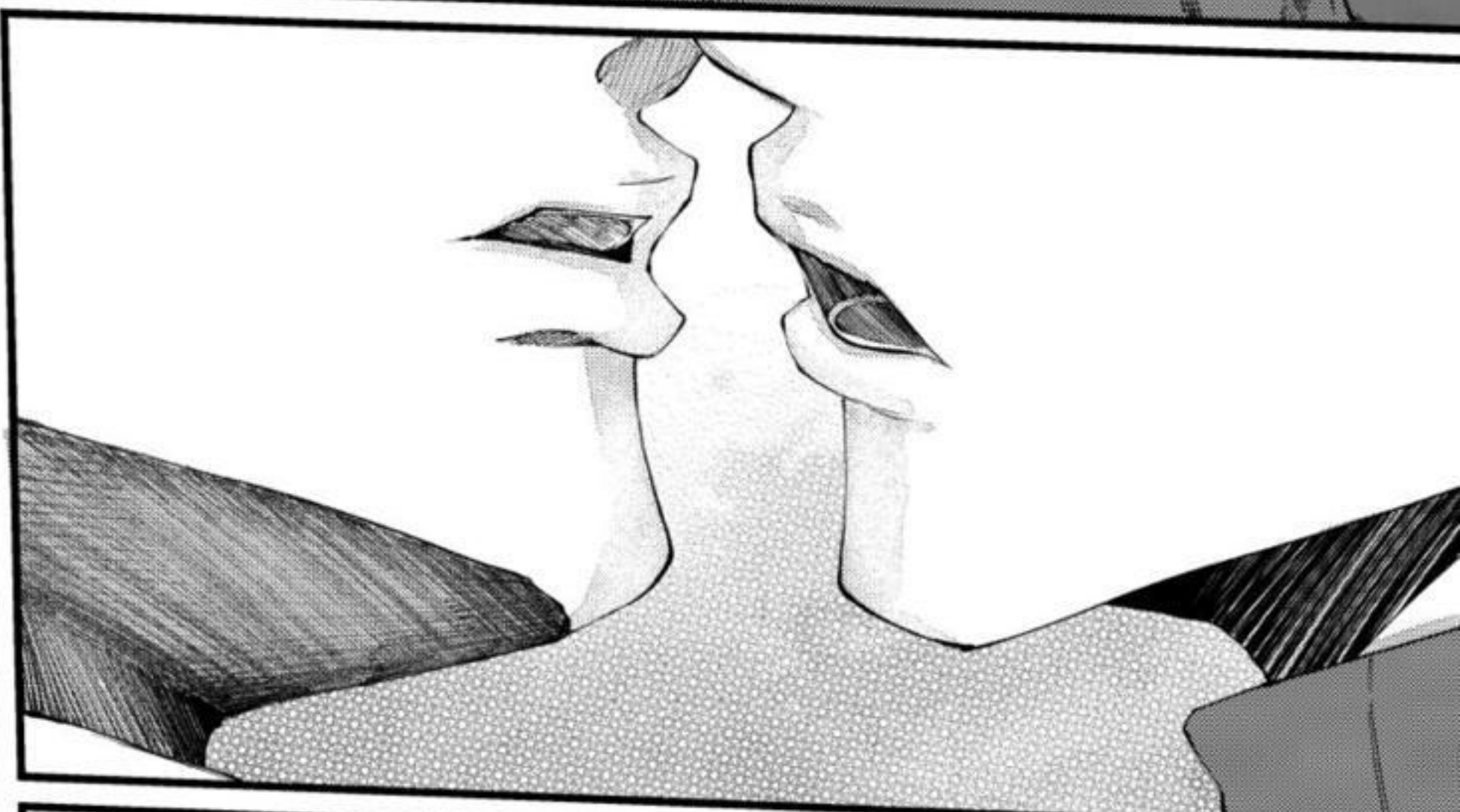
それは良かったです

いや……初めてかな

あの人は生まれ変わっても相変わらず
色んな人を振り回して生きているな……







最悪だ

サイアクだ

ー……もう

こんなのとつくに……
手遅れじゃないか

最悪だ……

泣き方なんてとうの昔に忘れた

ただ、幸せになって欲しいと

また、貴方は……瞳の奥を
見透かすように

見つけてきた

願っていたはずなのに



「……なんて顔してるんだ七海
昨日大活躍だったそうじゃないか」



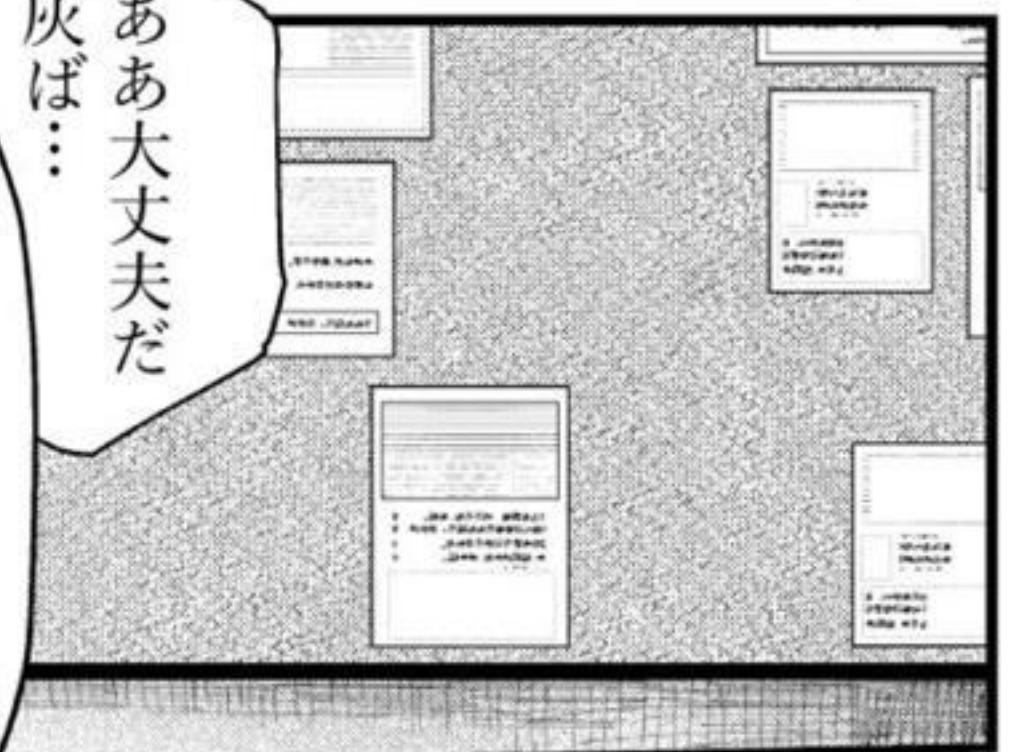
「そうですね……
……本当に」



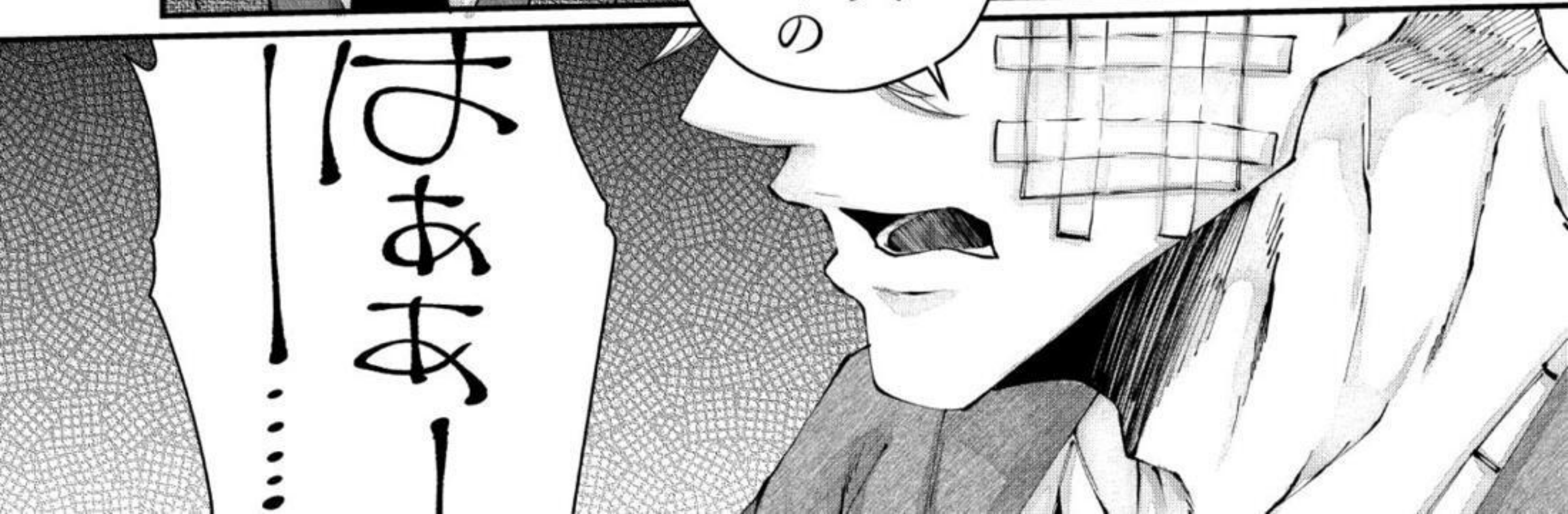
「七海大丈夫？
顔死んでるよ」

「ああ大丈夫だ
灰ば……」

「俺の顔は大丈夫
じゃないっつーの」



「はああー」



うわ…

何故、こんな所に…

何でって、ビンタして逃げた
奴に言われたくないんだけど

んな顔すんな

最悪だ…

お陰で仕事に影響出ちゃうじゃん
どうしてくれるのってか力強すぎ

何がお望みですか…金なら
余る程お持ちでしょう？

暫く僕の専属マネージャーして

確かにそう

だから…

がっはっ





飲み物をくれただけなのに
懐かしいと思ってしまった



俺にあんな物言いしてくる
奴なかなかいないから珍し
いって思った…それに

次の撮影まで時間
があるようなので



気が付けば、キスをしていた

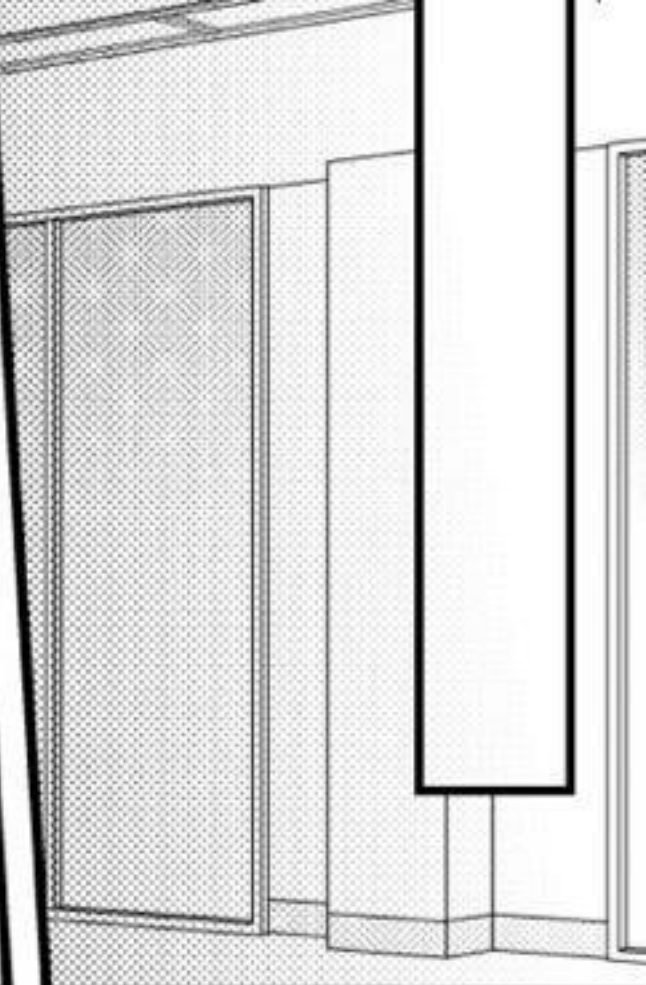


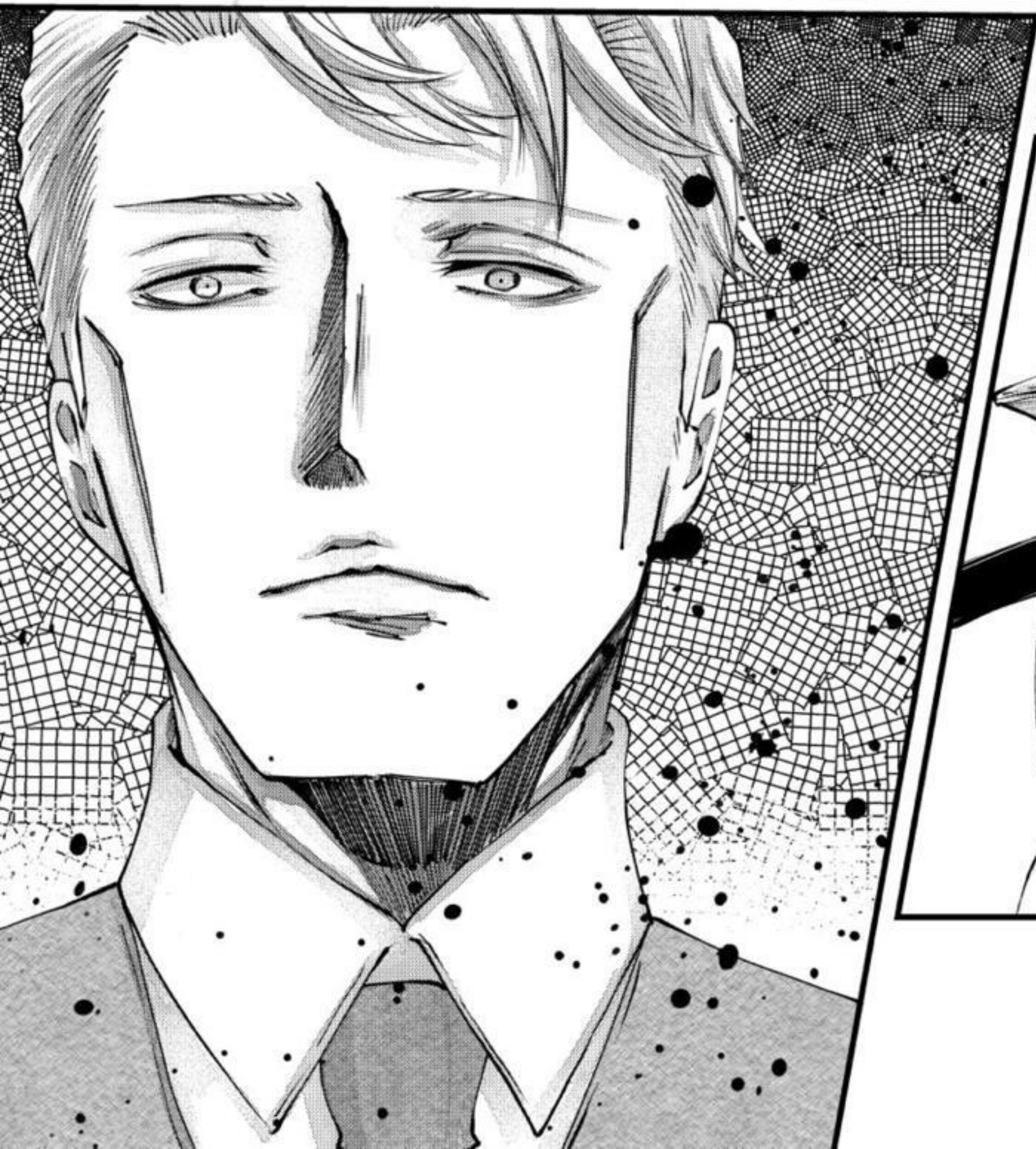
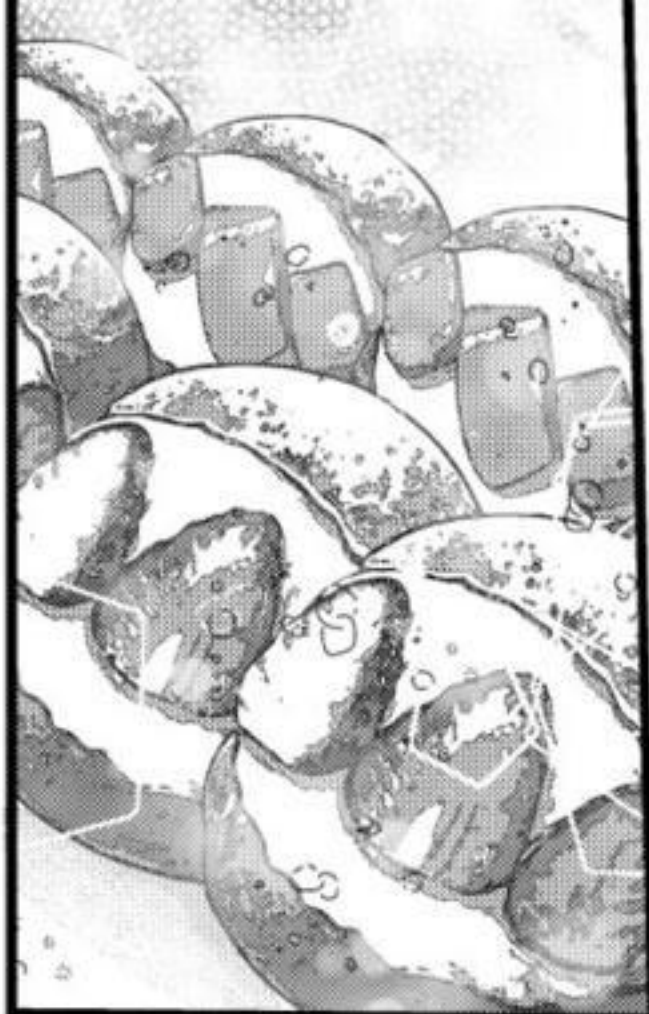
あとは…理由もなく泣きそう
になっていた自分がいて…



笑顔を見た時

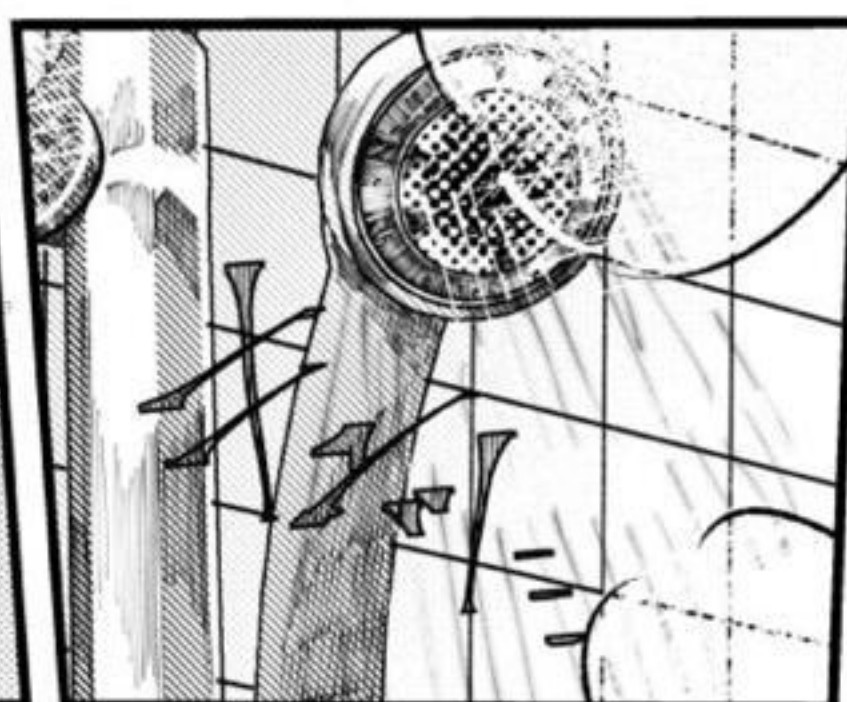
いなくなる気がして















わからない

わからないけれど

生きた心地がしなかった

良かった…

何でだろう

七海が突然「僕」の前から
消えちゃいそうな気がして

とりあえず…
痕にはならさそうだ

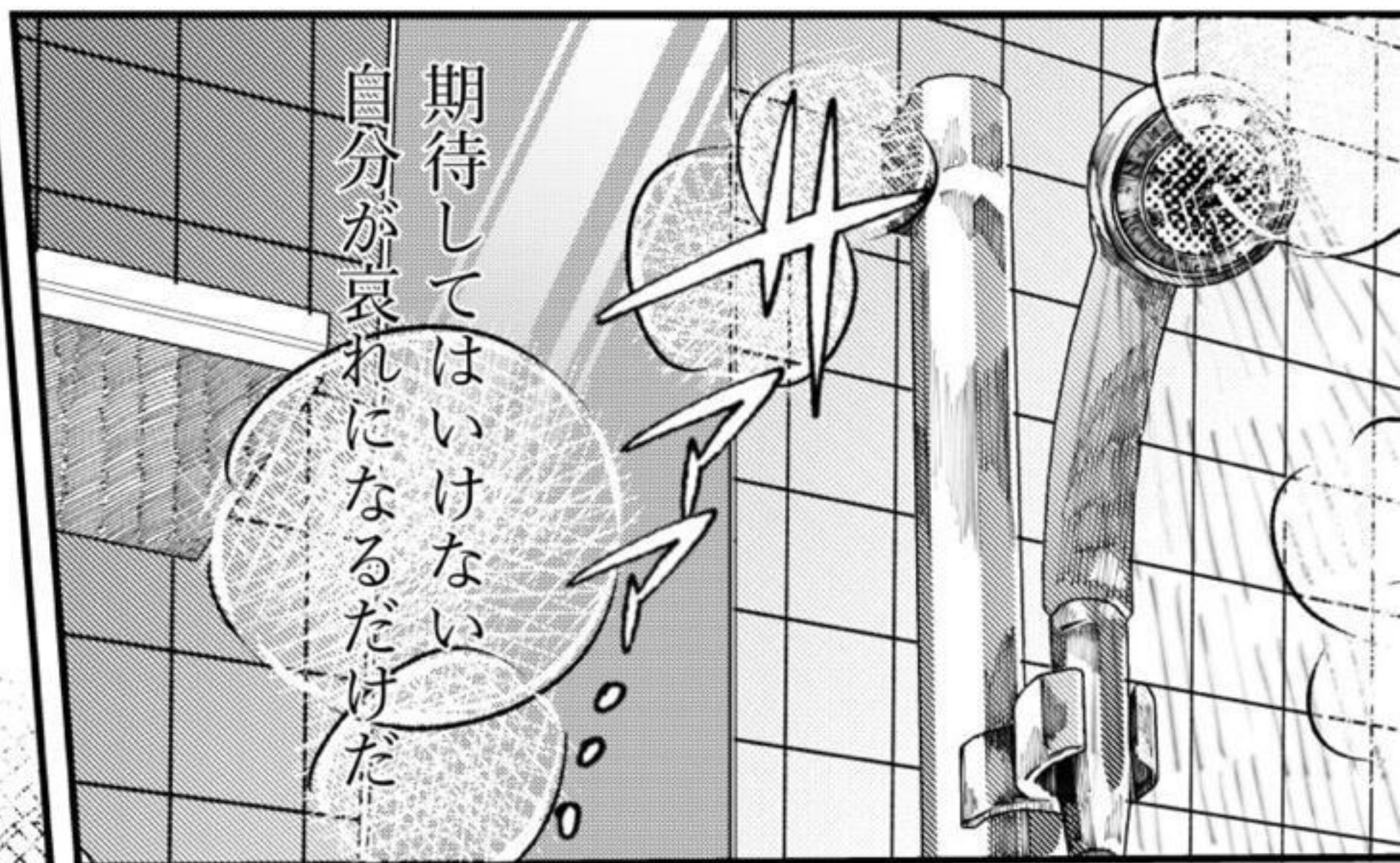
！…すみません

ご迷惑をおかけ
してしまつて

迷惑なんかじゃない
から大人しくしろ!!

！…さっき、五条さんの
一人称が変わつたのは

いや、まさか







はい



悟くん

ちよつといいかな

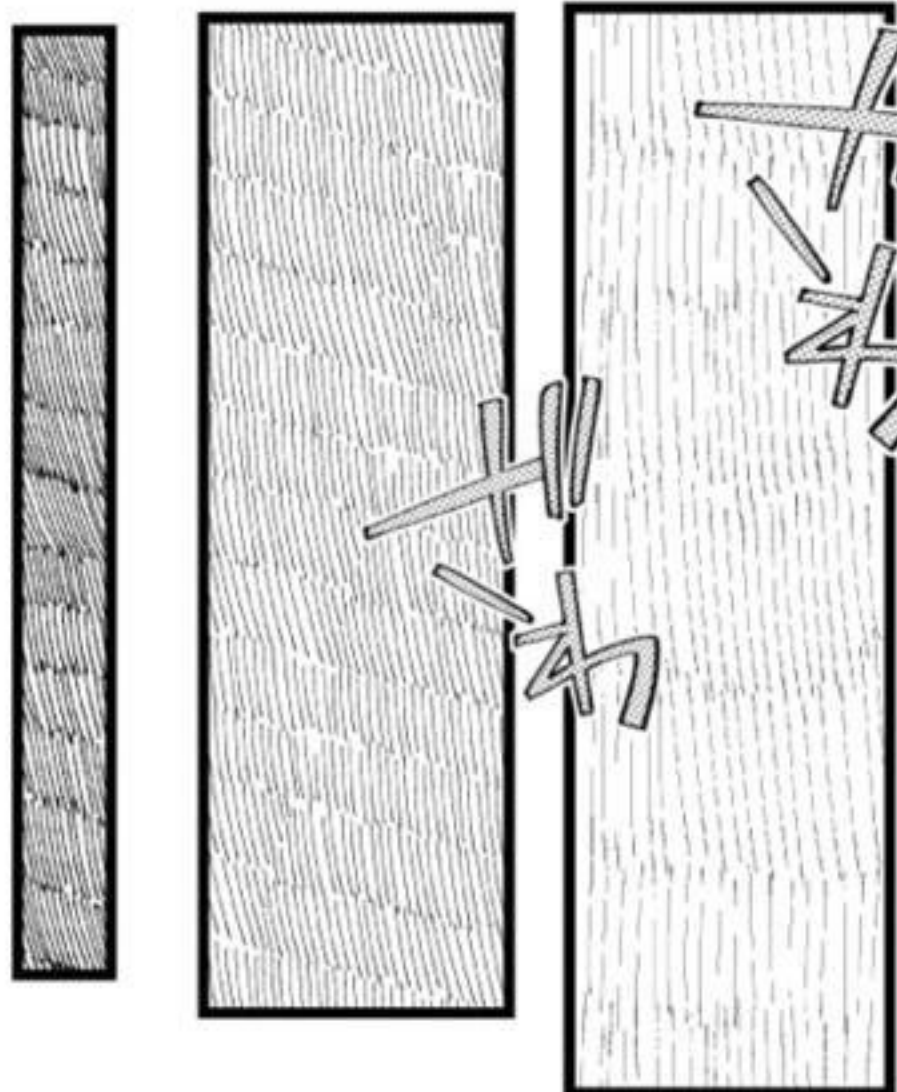
はは

ははは



ははは

！



皆様お疲れ様でした
五条は見ての通りですので
責任を持って持ち帰ります

ワ

七海さんお疲れ様です

流石五条の女房役!!

ははは



お疲れ様でした

ははは

いえ、こうなる事を
予想した上で一緒に
来ていたので



しかし：間違っって少し飲んだだけで
これだけ酔っってしまうとは恐ろしいな

五条さん

ん、何い！…

しっかりしてください
飲み会終わりましたので
家まで送りますから

んー、やだ

我儘言わないでください

やだ

五条さん



ねえ

！…七海

探せ言葉、出てこい言葉

七海、酒くさいよ

それは貴方も一緒です

何故か今ここで引き留めたい
行かせたくない





ほぼ毎日顔を合わせているのに
もっと会いたいと強欲になっている

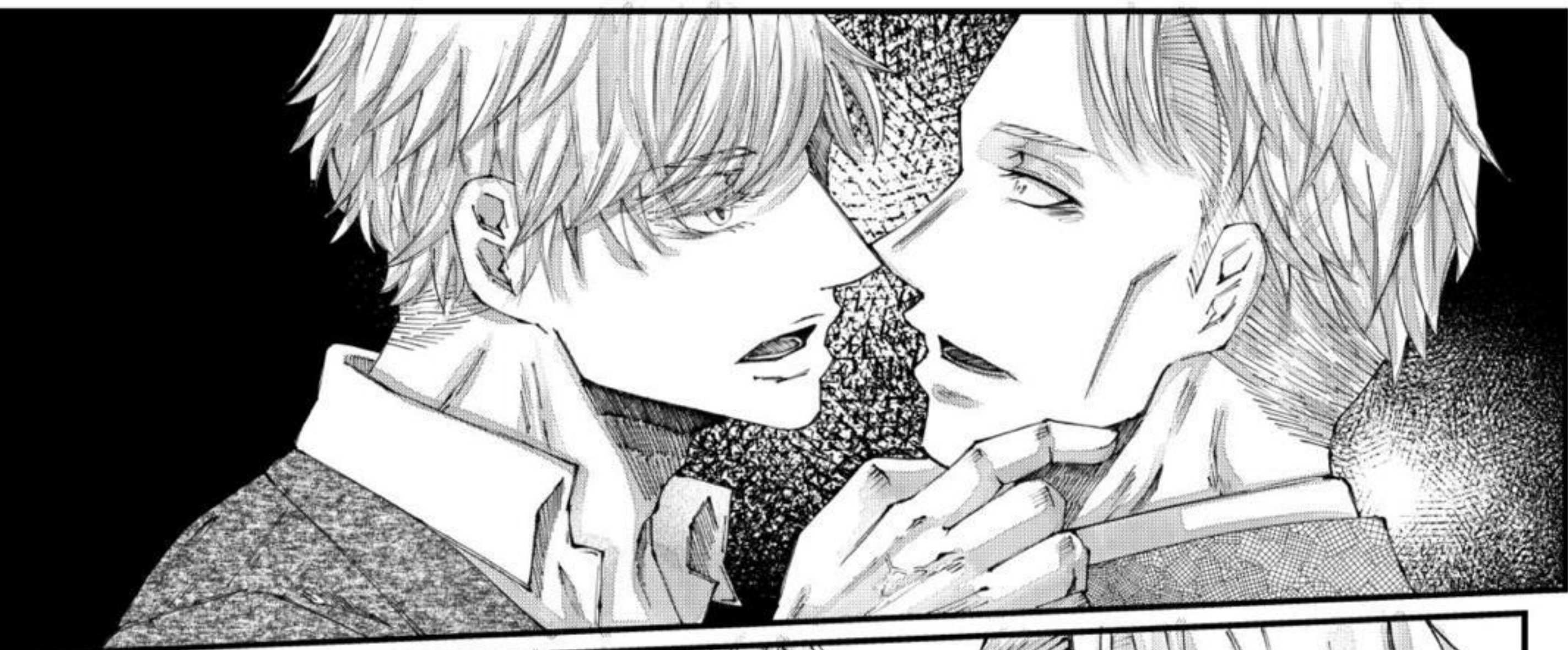
七海ってさ

僕を甘やかす
天才だよ

ドラマのように
なんて行かない

でも、だからこそ







期待なんて
していいない
してはいけ
ないのだ：





あ、うん

昨日って何時に
帰ったっけ…



少し飲んだだけで二日酔いになるなんてそこも変わらないな

五条さん、大丈夫ですか



1:23時には貴方を
送り届けました

やはり昨日のことは
覚えていない、か

そっか、ありがと



今日も仕事が詰まっています
薬でも飲んでおいてください



ガチャッ



懐かしいような、切なくなるような
この感情の名前がずっとわからない

……くそっ

あいつ…普通にしゃがって
忘れるわけねえだろ、まったく
逆に調子狂うなほんと



正直、何でキスしたのかもわからないが
一緒に過ごせば過ごすほど…何か



七海にだけ抱く



この気持ちの答えはずっと出ないまま



あらお疲れ様



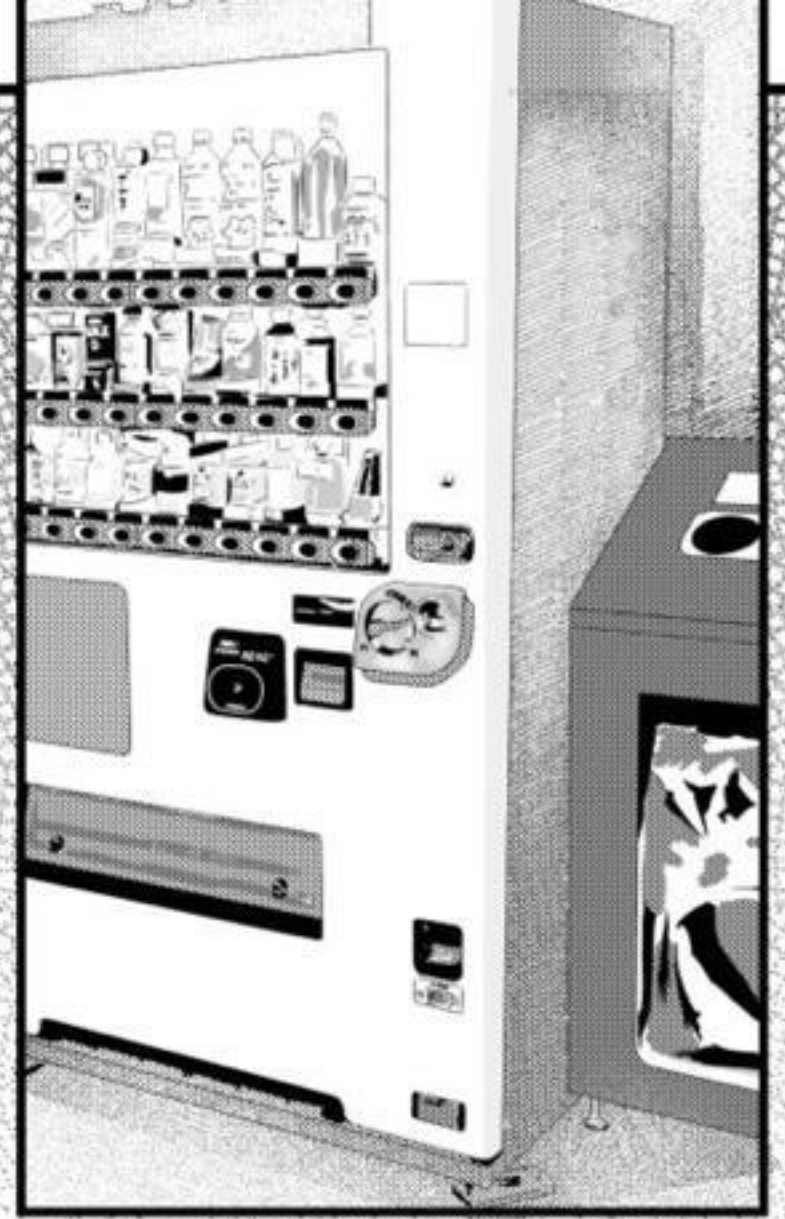
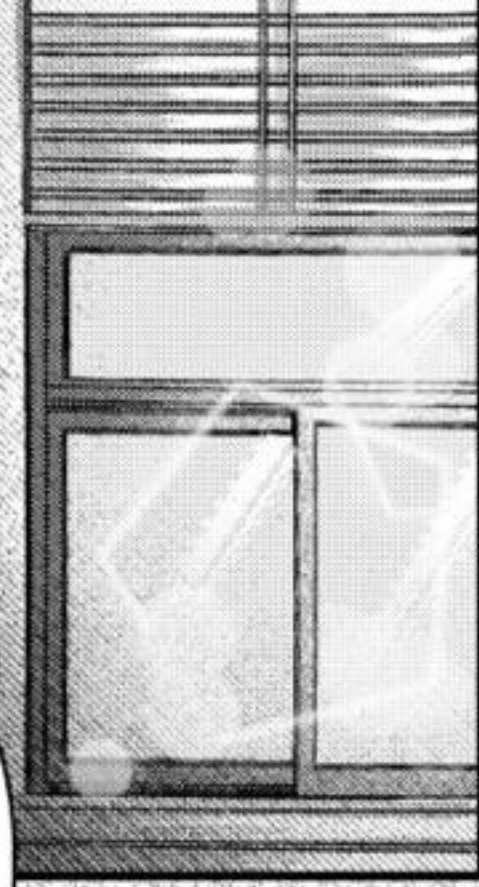
悟くんの、専属さん

大事なことをずっと

忘れている気がする



貴方、悟くんのこと
好きでしょう？



これ：ばら撒かれたら悟くん
初主演にしてメディア露出も
全部パーになって芸能界での
立場も何もかも失うかもねえ



……だったら

どうなんですか



貴方の事は専属って言いながら
使い勝手良い玩具のように使って
飽きたら切られて終わりよ



……は

男ですよと言っても
無駄よ、バレバシだから



悟くんは貴方のこと
何とも思っていないわよ



これ、なんででしょうか



……



：貴方は私に何を
要求するんですか



簡単よ、悟くんは今後
近づかないでちょうだい



ー…わかりました
そんな事でいいなら

そもそも元から期間限定契約
でしたので安心してください



あら、良かった

でも、貴方達が完全に
切れるまではこの写真
消す気はないからね

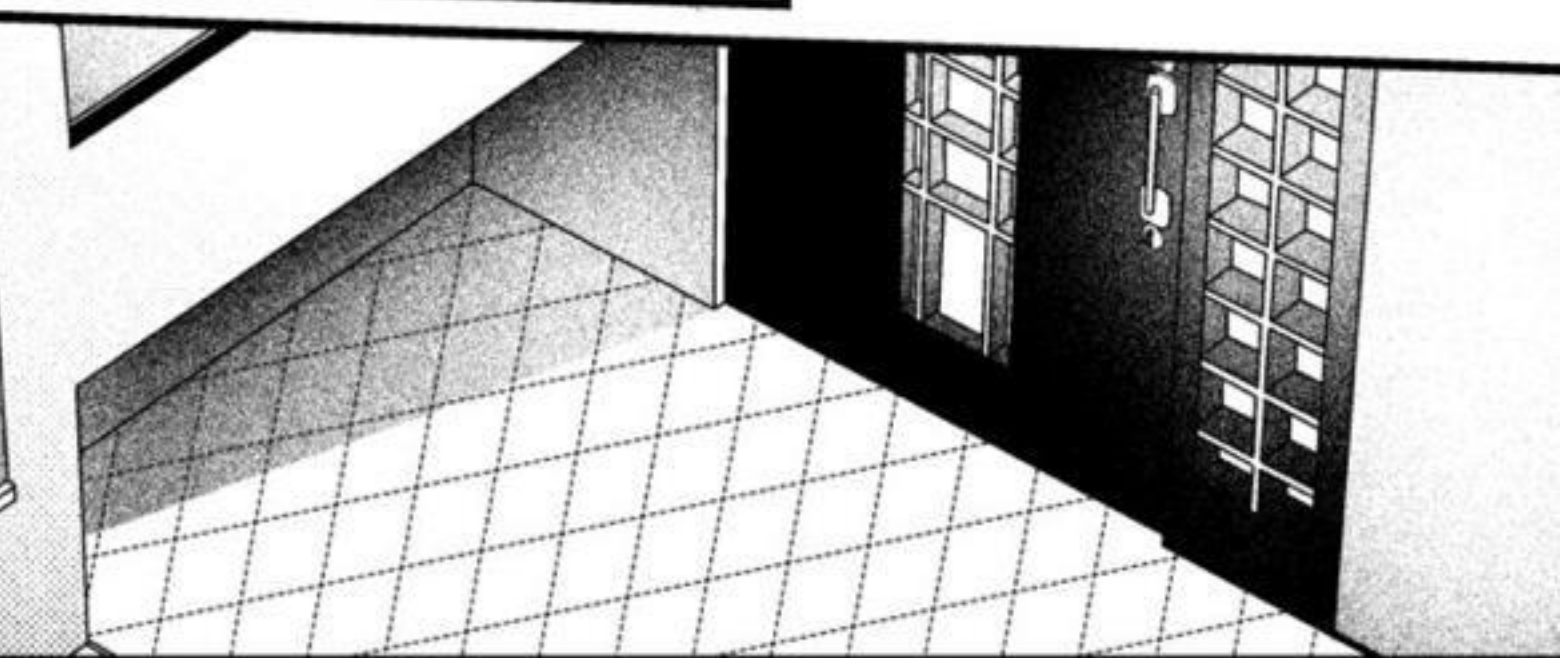
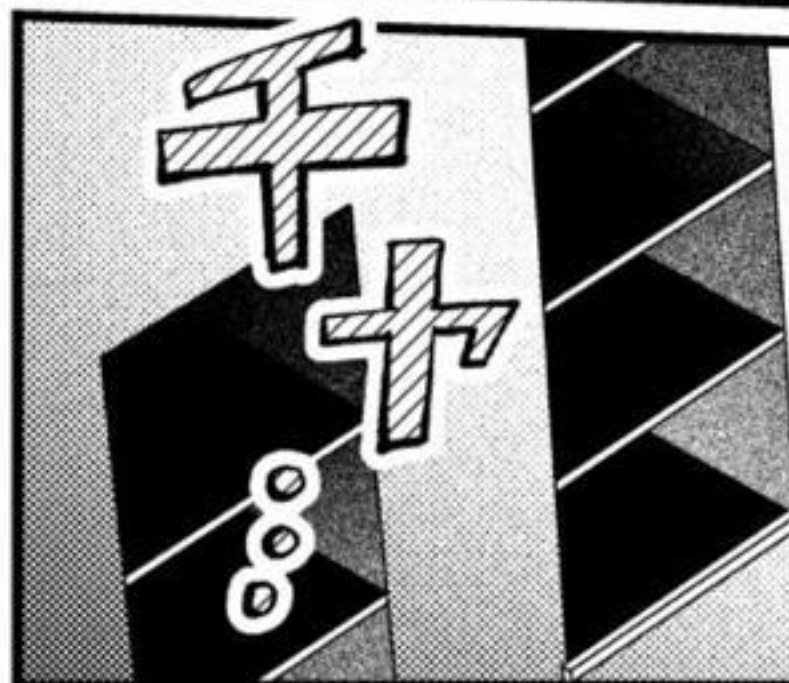


構いませんよ…全て終えた際には
必ずその写真は消してください

五条さんの為にも



ええ、約束するわ





五条さん…その格好は何です
今日の予定をお忘れですか



！…え、何だっけ

一時から〇〇局で
ドラマの取材です



貴方に負わせた怪我相應の
働きもしましたし、先日会社の
方から戻って来いと連絡も…

……は？



そのことなんですが

急な話で申し訳ありませんが
本日付で五条さんとの契約を
終了させて頂く事になりました

ごめんすっかり忘れてた…
流石七海、俺のマネージャー
勤めてるだけあるよほんと





……だ



いやだ



五条さん、我儘言わないで
ください……元々貴方とは
期間限定契約だと当初から
決まっていた事でしよう



貴方はスーパーモデルで
私は勤めの一般人ですので
お互いの世界に戻るだけです



じゃあ俺たちはこの契約が
切れたどうなるんだよ



七海はそう思ってたんだ



契約、今日までなんだろう

五条……さん



俺の言うこと
聞いてもらう

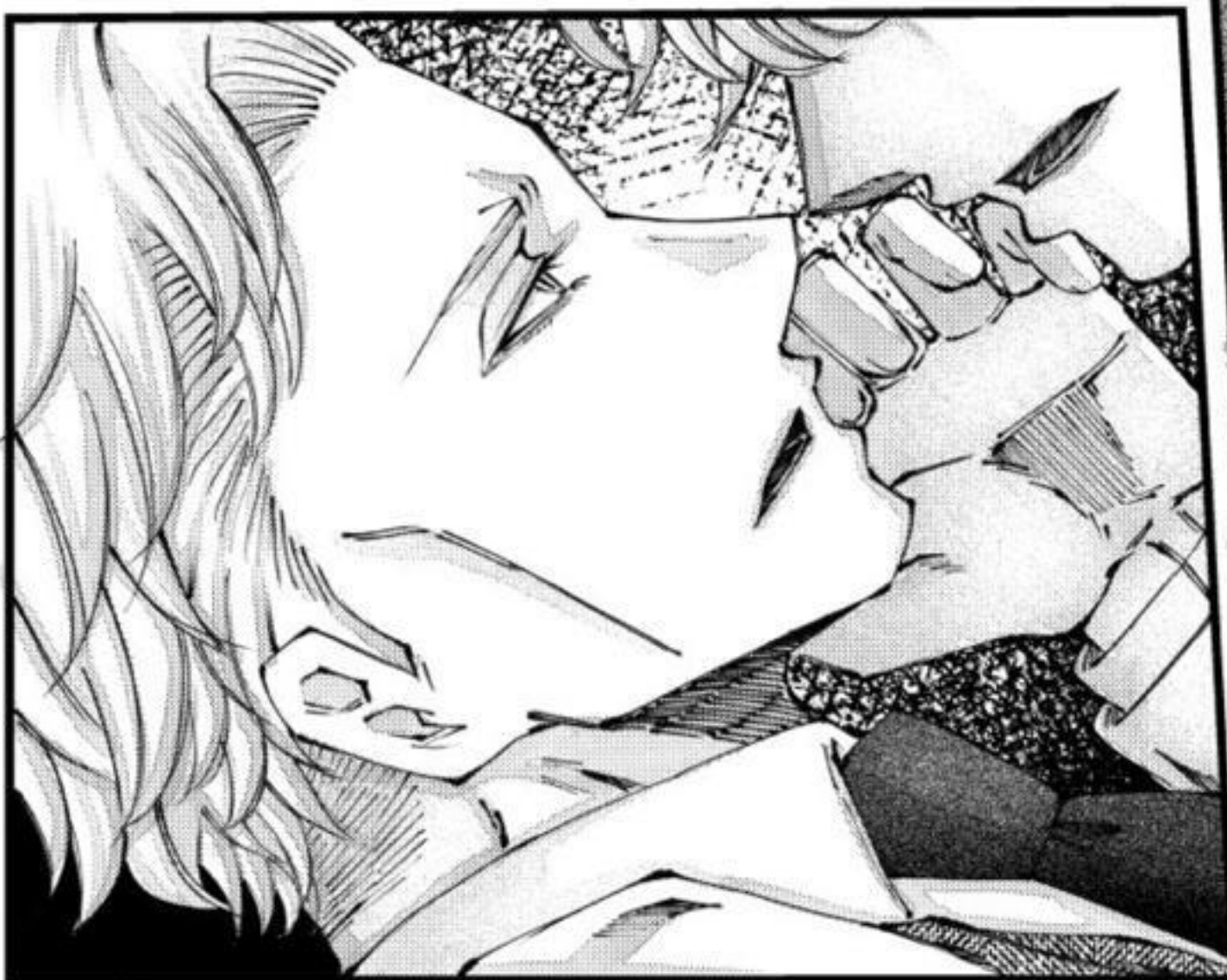
待って……ください！
五条さん、待って……っ！



こんなこと、ダメです……っ

待たない

逃がさない



「今度こそ、離さない」





口ではイヤイヤ
言ってるけどさ

はー

やだ、あ…っ

いや、イヤです

ムリです…っ

五条…さん…

おねが、いで…す



七海のナカは離して
くれないけど……

ほら、わかる？



ちが……っ!!

ココに僕の啜え込んで
七海は感じてるんだよ

はちま
ちゅっ
ちゅっ



七海、ごめん

五条さん、お疲れ様です
少しお時間空きますので
少し休憩されてください

ああ…



五条さん…七海さんがマネ辞めて
からずっとあんな感じで…
仲良かったから寂しいんですかね

本当よね…いつも暴れてたのが
大人しいと私たちの方も何だか
調子狂っちゃうわねえ…

本当ですね…

七海さんは、あの五条さんとともに会話
できる数少ない貴重な人だったのに…

しかも、珍しい事に五条さんの方が
七海さんにべったりで…七海さん
マネ復帰してくれたら万々歳ですよ



はい、××デザイン
ワークスの七海です

わざわざ営業電話までお調べ
頂きありがとうございます

貴方の番号なんて関係者
大体は知っているわ…
大人気だった七海さん

あら、よかったわ
間違ってたかった

案外、すんなり
切ってくれたわね

約束ですから

そうね、こちらも約束
通り消してあげるわ

お仕事でまた貴方とは会う機会が
多いと思うからその時は是非とも
晶屑にしてくれてもいいのよ？

それこそ…変な噂
立ちたくないのよ

大丈夫、その頃私と悟くん
の熱愛発覚でもちきり状態
にでもしてあげるから

じゃあ、またね♡

なあ





わかっていた筈なのに
自分が招いた事なのに

このまま、もう

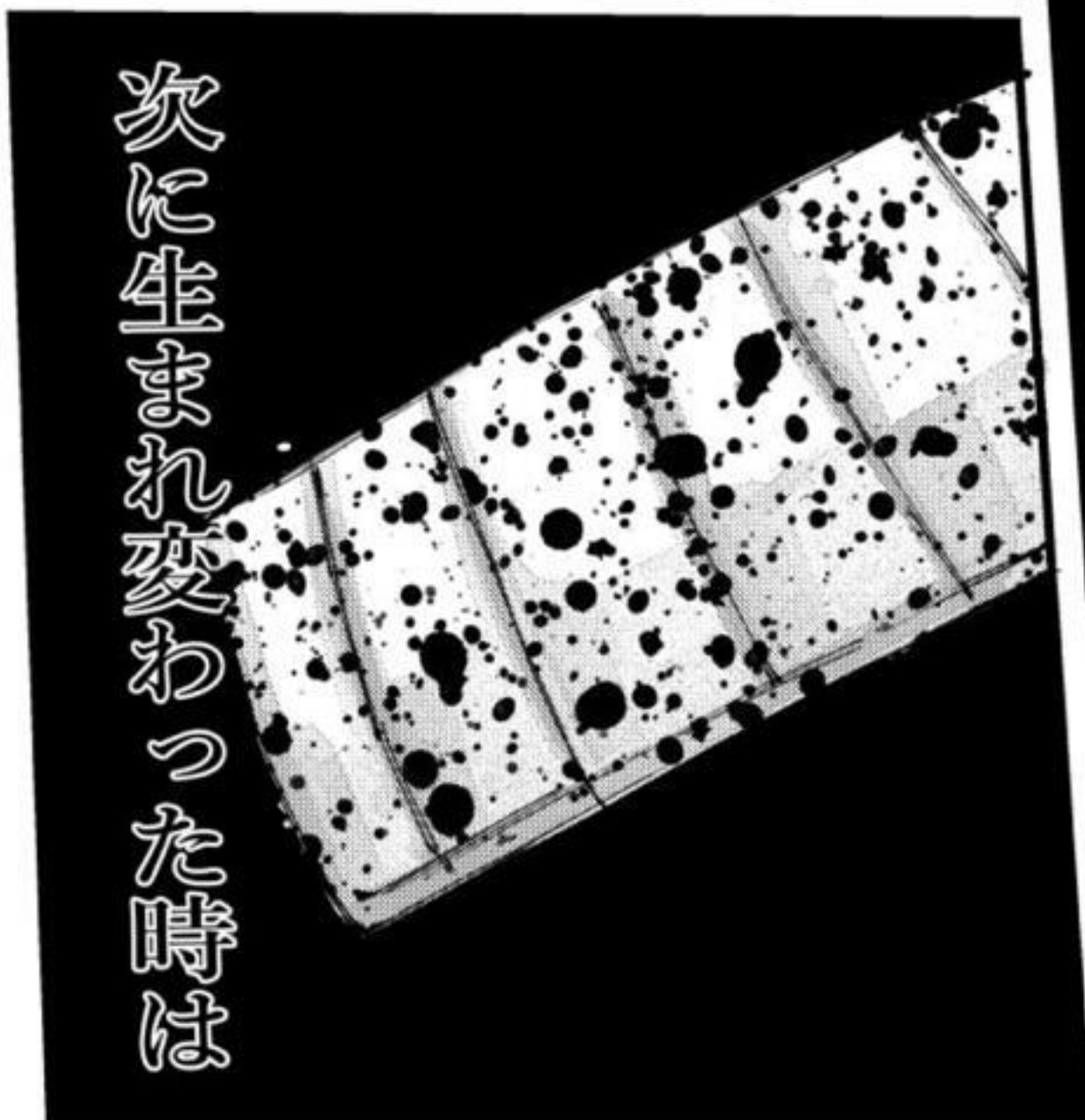
七海に会えなくなるのか

叶わない夢を見続けた…

世界が平和になり自由が訪れる



だから…



次に生まれ変わった時は



でも、その世界にはお前はもう…
いなかったら全て意味がないんだよ



そんな世界でお前と出会って



呪い、呪霊などは存在しない…

あ？

俺を待たせるなんて
いい度胸してるよねえ

知るかよそんな…

モデルの方ですか？

たとえ記憶がなくても
隣じゃなかったとしても

ナナミンは…

僕は…

何度生まれ変わって、何年かかるかと
七海、七海建人…俺の、大切な人

見つけ出してみせる…





……七海



思い出になつてしまふのが怖かった



当たり前のように流れていた日々が

七海が死んだなんて



七海の

七海のいない
明日なんて

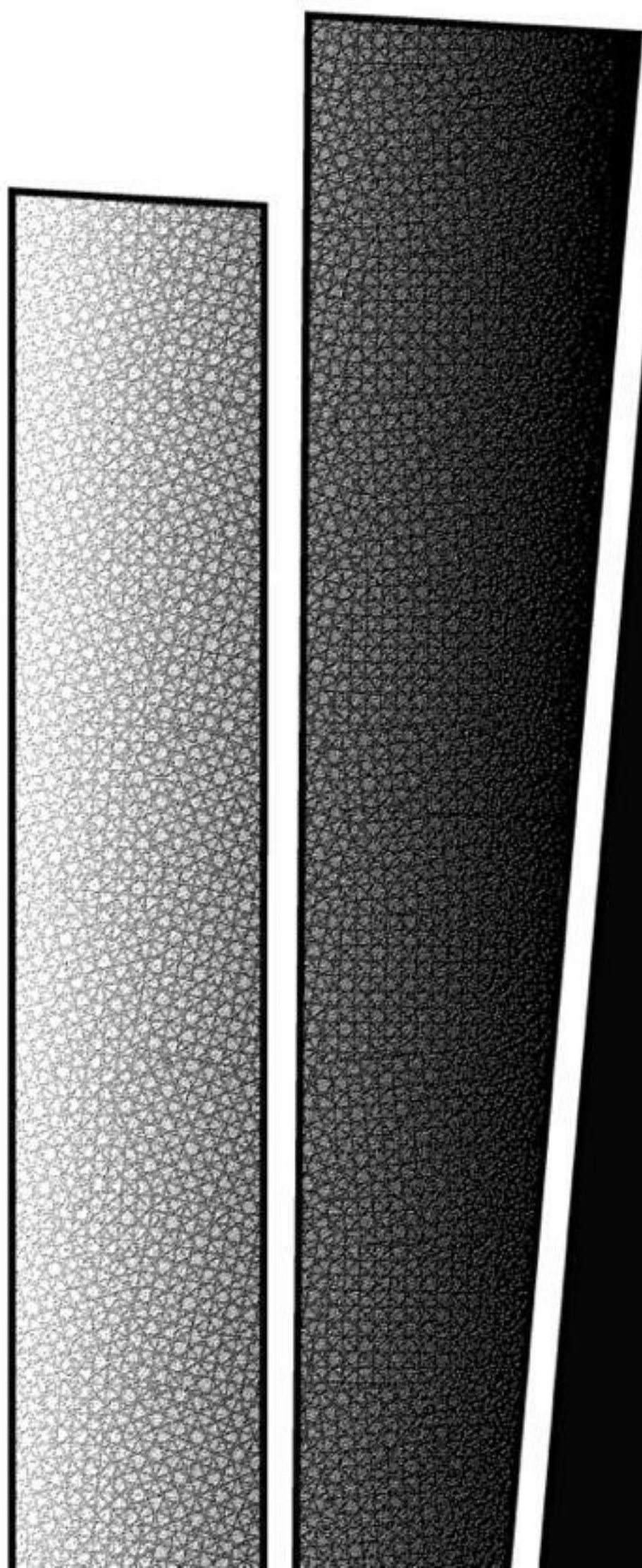


時間が

世界が



止まっているようだった





あの日から五条さんと
顔を合わせる事はない



抱かれた日から…



そして…あの時
一瞬でも自分が



五条さんに抱かれて嬉しい、と
思ってしまった事に嫌気がさす



昔と重ね合わせて…
虚しい気持ちになる



自分だけが



朝からなんだ…



折角の休みが…





帰らないよ…七海

写真^{しやうしん}は消したから
他に言いたい事ある？



…というか別に僕は拡散され
ようと全く構わないんだけど

五条さん…貴方
何を、言って…



まだそうやって
本音隠すんだ



全部、暴くけど



僕に隠す事なんて
出来ないんだから

逃げないで

忘れていても、何度
生まれ変わっても

……いやまさか

五条さん……



思い出すぎ

……七海建人、僕が
生涯愛し続けた人だ



でも、七海の部屋に遺された手紙を
読んだ時『寂しい』ってやっと思った



七海が死んだって悠仁の口から
聞いたけど正直実感がなかった



ほんとうに、馬鹿ですね



七海の存在が
絶対だったんだ

何年経って季節が
巡って過ぎようとも





同じ時代に生まれ
七海に触れられる……



せつかく……自由な人生を
歩めるようになったのに

私なんか選ぶんですか

それが当たり前で
特別な事なんだよ



夢で七海を見ていた
記憶がない間……毎日

心の底に沈んでも
ずっと忘れなかった

ずっと

ずっと

会いたかった



ああ…



なんて優しくて
温かい音だろう



この手は、離さない







幸せだと、思っているの



あぁ
今度こそ、離さない

七海が…



七海が最期の眠りについて
目を閉じる時まで傍にいる



きもち、いい...です

ななみ、きもちい...



七海...愛してる

はーん

かっ



ー...可愛い、七海

はーん

はーん

